

## 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

### 総括研究報告書（令和6年度）

#### 子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究

研究代表者 慶應義塾大学 名誉教授 青木大輔

#### 研究要旨

本研究は、子宮頸がん検診における HPV 検査単独法の導入に向けて、妥当な運用アルゴリズムを文献的に検討することを目的とした。2023 年度までの体系的文献検索により得られた情報をもとに、2024 年度は特に追跡精検の時期と累積罹患に着目した。アルゴリズムについては、HPV 検査単独法による検診後に細胞診でトリアージし、HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM 症例に対して追跡精検を行う場合、実施時期は「12 ヶ月後」が最多であった。一方、累積罹患については、HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM 症例の CIN3 と浸潤がん (CIN3+) や浸潤がんの長期的な累積リスクに関する動向は得られたものの、追跡精検の方法や時期まで含めたアルゴリズム別での比較データは確認できなかった。これらの結果から、わが国で採用したアルゴリズムは文献的にも最も一般化されている形式であると考えられるが、罹患率減少効果については、他国のデータに依存せず、自国でモニタリングを行う必要がある。

#### 研究分担者氏名 ・ 所属研究機関名及び所属研究機関における職名

八重樫 伸生	・ 国立大学法人 東北大学・大学院医学系研究科・客員教授
藤井 多久磨	・ 藤田医科大学・医学部 婦人科学・教授
宮城 悦子	・ 横浜市立大学・大学院医学研究科 生殖生育病態医学・教授
中山 富雄	・ 国立がん研究センター・がん対策研究所 検診研究部・部長
齋藤 豪	・ 札幌医科大学・医学部・教授
横山 良仁	・ 弘前大学・大学院医学研究科・教授
竹原 和宏	・ 四国がんセンター・婦人科・手術部長
川名 敬	・ 日本大学・医学部・主任教授
齊藤 英子	・ 国際医療福祉大学三田病院・予防医学センター・講師
森定 徹	・ 杏林大学・医学部産科婦人科学教室・准教授
高橋 宏和	・ 国立がん研究センター・がん対策研究所 検診研究部検診実施管理研究室・研究員
戸澤 晃子	・ 聖マリアンナ医科大学・医学部産婦人科・客員教授
雑賀 公美子	・ JA 長野厚生連 佐久総合病院・佐久医療センター 総合医療情報センター・医療情報分析室長
黒川 哲司	・ 福井県済生会病院・産婦人科・主任部長
上田 豊	・ 大阪大学・大学院医学系研究科・講師
西尾 浩	・ 慶應義塾大学・医学部 産婦人科学・専任講師

## A. 研究目的

<研究全体の目的> わが国の子宮頸がん検診は、健康増進事業の一環として市区町村における対策型検診として行われており、その手法は「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」(指針)に基づき子宮頸部細胞診が採用されている。近年、細胞診に比較してより感度の高い HPV 検査を用いた検診を対策型検診として導入した国も存在する。しかし、がん検診を取り巻く環境や検診の精度管理状況は国によって異なるため、精度管理体制が十分とは言えないわが国で HPV 検査を用いた検診が検診としての効果が上げられる保障はない。

また、わが国の地域住民検診の内容の決定には「科学的根拠に基づくがん検診ガイドラインでの推奨」に加え、厚生労働省によって組織されている組織される「がん検診のあり方に関する検討会」において対象年齢や検診間隔、アルゴリズムなどの実際の運用方法を決定するという過程を経る必要がある。そこで本研究は、「がん検診のあり方に関する検討会」にて実際の運用を決める際の参考となる学術的見解を示すことを目的とした。

2022 年(令和 4 年)度 HPV 検査の導入によって生じるリスク保持者に対する追跡管理方法について文献・公表物を含めた検討や、HPV 検査による検診の導入に必要なインフラとして、液状化検体細胞診、液状化検体を用いた HPV 検査を実施できるキャパシティの情報の調査を実施した。2023 年(令和 5 年)度は HPV 検査を用いた子宮頸がん検診について対策型検診での実際のアルゴリズムと運用、さらに導入条件を決めるための基礎データとして、体系的文献検索により、アルゴリズム候補の抽出と絞り込みを行なった。また、厚生労働省からの要望により、これまで得られた学術的見解に基づいた範囲でがん検診のあり方に関する検討会に示す

アルゴリズム案を暫定的に作成し、対策型検診における HPV 検査単独法導入・実施のためのマニュアル(案)を作成した。

2024 年(令和 6 年)度は、前年度のアルゴリズムの文献検索を元に、累積罹患、なかでも「HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM 症例」での CIN3+ の病変の累積罹患状況について体系的な文献検索を行ない、HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の妥当性を指示する運用実績についての基礎資料作成を目的とした。

## B. 研究方法

### I. 追跡精検の時期についての網羅的文献調査

2023 年度までの研究で、子宮頸がん検診のアルゴリズムおよび CIN3+ の発生率についての文献候補を key word にて 673 文献がリストアップされ、アルゴリズムが確認できたものは 56 文献で、87 のアルゴリズムが検出された。2023 年度の研究で明らかにした、検診手法として最も多かったのは high risk HPV 検査(以下 HPV 検査)単独法、そのトリアージ方法でもっとも多かったのは細胞診であり、HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM の症例の管理のために時間をあけて追跡的に行う精密検査である追跡精検の方法で最も多かったのは HPV 検査単独法であったことから、本年はこの「HPV 検査単独法による検診→細胞診トリアージ→HPV 検査単独法による追跡精検」のアルゴリズムにおける追跡精検の時期について文献を検索した。

### II. 累積罹患についての網羅的文献調査 II-1.

#### アルゴリズム別 II-2. HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM 症例での CIN3+ の累積罹患の経時的推移

2023 年度までにリストアップされた 56 論文を個々に通読し、CIN3+ の累積罹患データ記載の有無を確認した。ここでの累積罹患とは、検診暴

露から、12ヶ月以上のフォローアップ期間中に検出された病変の数と定義し、検診回数実施回数は問わないものとした。記載されていた累積罹患データを、アルゴリズムのパターン別に分類した。また浸潤がんの累積罹患についても検討した。

(倫理面への配慮)

本研究は主に文献収集および地方自治体等を対象にした調査であり、個人への介入は行わない。人体から採取された資料は用いないため、倫理上、特に問題は発生しない。

### C. 研究結果

#### I. 追跡精検の時期・方法の文献的検索

・2023年に報告した文献的に最も多かった、「HPV検査単独法検診+細胞診トリアージ」における、「HPV検査陽性かつ細胞診NILM」症例へのHPV検査単独法による追跡精検の実施時期は、12ヶ月後が27文献中22件(81%)と最も多く、24ヶ月後が3件、6ヶ月後が1件であった。(図1)

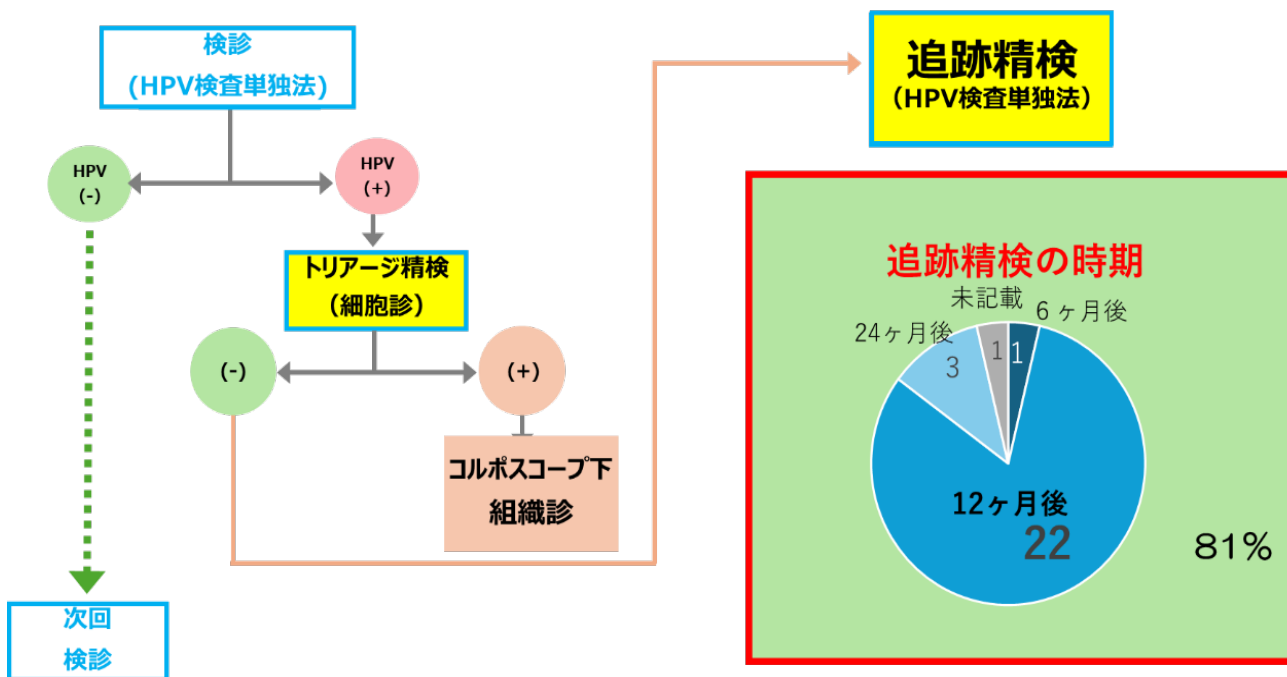


図1

## II. 累積罹患についての網羅的文献調査

### II-1. アルゴリズム別の累積罹患解析は可能か?

11文献が候補であり、(表1、表2) これらの文献では、トリアージ精検についての記載が8文

献であったものの、追跡精検の方法、時期についての記載があるものは存在せず、追跡精検を含めたアルゴリズム別の累積罹患の解析は現時点でできないことが判明した。

表1. アルゴリズム別累積罹患についての結果 (文献番号は体系的検索時のもの)

アルゴリズムグループ	文献番号	追跡精検の指定	結果 (CIN3+)	備考
HPV単独→細胞診トリアージ	文献10	なし	細胞診陰性でのリスク HPV陰性を有意に上回ったのは25歳以上で16、31、33/58のみ、30歳以上で16、31のみ	細胞診NILMで型判定
	文献44	なし	細胞診陽性→陰性	
	文献58	なし	細胞診陰性のリスク 1、3、5、10、15年目: 2.1%, 4.3%, 6.4%, 11.5%, 16.3%	浸潤癌でのデータあり 0.8%, 1.2%, 1.6%, 2.7%, 3.7%
	文献60	なし	いずれのサブグループでもNILMは他より罹患率低	(HPVの時点での型のサブグループ分けあり) ワコケリタイ
(HPV単独→細胞診→メチル化トリアージ)	文献36	なし	細胞診陰性でのリスク 【5年目まで】 ・メチル化陰性が最も多。 ・細胞診陰性では少な目。 【5年目～15年目】 ・細胞診陰性とメチル化陰性が同程度に累積罹患率高 ・細胞診陰性かつメチル化陰性が一番低い	
細胞診単独→HPVトリアージ	文献108	なし	30-64歳 ASC-US でHPV陽性/HPV陰性 : 6.8%/0.43%	21-24歳、25-29歳データあり 浸潤癌のデータもあり
HPV単独→HPV型判定トリアージ	文献6	追跡精検もHPV単独	罹患リスクが高い順位 ・16型持続 ・16型以外の持続 ・新たに16型に感染 ・新たに16型以外感染 ・HC2陽性型判定陰性 ・HC2陰性	
	文献11	なし	次の順に累積罹患が多い 16,33,18,58,35,31,45,52,39,56,68,51,59	
スクリーニング法のみでアルゴリズムなし	文献6	なし	2年目から一貫して細胞診NILM>HPV陰性	
	文献7	なし	30歳以上 HPV単独>細胞診単独 (P<0.05) HPV単独vs細胞診+HPV併用(NS) 細胞診+HPV併用vs細胞診単独(NS)	25歳以上のデータもあり
	文献32	なし	HPV単独は細胞診単独と比較し罹患率が減少 0.43(0.33-0.56)倍	罹患率減少効果!メタアナリシス 浸潤癌データあり
	文献105	なし	—	罹患率減少効果!モデリング 浸潤癌のみ ・7.5年の検診間隔まで:5年に1回の細胞診単独よりがん罹患減少が見込める

表2. 上記文献に該当する論文一覧

文献番号	該当文献
6	Clare Gilham, Alexandra Sargent, Henry C Kitchener, Julian Peto: HPV testing compared with routine cytology in cervical screening: long-term follow-up of ARTISTIC RCT. Health Technol Assess. 2019 Jun;23(28):1-44.
7	Thomas C Wright, Mark H Stoler, Catherine M Behrens, Abha Sharma, Guili Zhang, Teresa L Wright: Primary cervical cancer screening with human papillomavirus: end of study results from the ATHENA study using HPV as the first-line screening test. Gynecol Oncol. 2015 Feb;136(2):189-97.
10	Mark H Stoler, Thomas C Wright Jr, Valentin Parvu, Karen Yanson, Charles K Cooper, Jeffrey Andrews: Stratified risk of high-grade cervical disease using onclarity HPV extended genotyping in women, ≥25 years of age, with NILM cytology. Gynecol Oncol. 2019 Apr;153(1):26-33
11	Maria Demarco, Noorie Hyun, Olivia Carter-Pokras, Tina R Raine-Bennett, Li Cheung, Xiaojian Chen, Anne Hammer, Nicole Campos, Walter Kinney, Julia C Gage, Brian Befano, Rebecca B Perkins, Xin He, Cher Dallal, Jie Chen, Nancy Poitras, Marie-Helene Mayrand, Francois Coutlee, Robert D Burk, Thomas Lorey, Philip E Castle, Nicolas Wentzensen, Mark Schiffman: A study of type-specific HPV natural history and implications for contemporary cervical cancer screening programs. EClinicalMedicine. 2020 Apr 25;22:100293.
32	Marc Arbyn, Guglielmo Ronco, Ahti Anttila, Chris J L M Meijer, Mario Poljak, Gina Ogilvie, George Koliopoulos, Pontus Naucler, Rengaswamy Sankaranarayanan, Julian Peto: Evidence regarding human papillomavirus testing in secondary prevention of cervical cancer. Vaccine. 2012 Nov 20;30 Suppl 5:F88-99.
36	F J Vink, B I Lissenberg-Witte, C J L M Meijer, J Berkhof, F J van Kemenade, A G Siebers, R D M Steenbergen, M C G Bleeker, D A M Heideman: FAM19A4/miR124-2 methylation analysis as a triage test for HPV-positive women: cross-sectional and longitudinal data from a Dutch screening cohort. Clin Microbiol Infect. 2021 Jan;27(1):125.e1-125.e6.
44	Philip E Castle, Barbara Fetterman, Nancy Poitras, Thomas Lorey, Ruth Shaber, Mark Schiffman, Franklin Demuth, Walter Kinney: Variable risk of cervical precancer and cancer after a human papillomavirus-positive test. Obstet Gynecol. 2011 Mar;117(3):650-656. doi: 10.1097/AOG.0b013e318209da59.
58	Talia Malagón, Karena D Volesky, Sheila Bouten, Claudie Laprise, Mariam El-Zein, Eduardo L Franco: Cumulative risk of cervical intraepithelial neoplasia for women with normal cytology but positive for human papillomavirus: Systematic review and meta-analysis. Int J Cancer. 2020 Nov 15;147(10):2695-2707. doi: 10.1002/ijc.33035. Epub 2020 May 26.
60	Mark Schiffman, Noorie Hyun, Tina R Raine-Bennett, Hormuzd Katki, Barbara Fetterman, Julia C Gage, Li C Cheung, Brian Befano, Nancy Poitras, Thomas Lorey, Philip E Castle, Nicolas Wentzensen: A cohort study of cervical screening using partial HPV typing and cytology triage. Int J Cancer. 2016 Dec 1;139(11):2606-15. doi: 10.1002/ijc.30375. Epub 2016 Aug 26.
105	Johannes Berkhof, Veerle M Coupé, Johannes A Bogaards, Folkert J van Kemenade, Theo J Helmerhorst, Peter J Snijders, Chris J Meijer: The health and economic effects of HPV DNA screening in The Netherlands. Int J Cancer. 2010 Nov 1;127(9):2147-58.
108	Hormuzd A Katki, Mark Schiffman, Philip E Castle, Barbara Fetterman, Nancy E Poitras, Thomas Lorey, Li C Cheung, Tina Raine-Bennett, Julia C Gage, Walter K Kinney: Five-year risk of CIN 3+ to guide the management of women aged 21 to 24 years. J Low Genit Tract Dis. 2013 Apr;17(5 Suppl 1):S64-8.

## II-2. HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM 症例での CIN3+ の累積罹患

11 文献中 CIN3+ の累積罹患についての記載があるのは下記である。

- HPV 単独法検診+細胞診トリアージ 5 文献
  - 文献 10 (細胞診 NILM 症例の型判定)
  - 文献 44
  - 文献 58
  - 文献 60 (HPV 検査の時点で型のサブグループ分けあり)
  - 文献 36 (細胞診のあとにメチル化検査を実施、数値なし)
- HPV 単独→HPV 型判定アルゴリズム 1 文献
  - 文献 60 のデータで解析可能
- 細胞診単独→HPV トリアージアルゴリズム
  - 文献 108 : cytology : ASC-US に対して HPV トリアージ
- スクリーニング法のみでアルゴリズムなし文献 2 文献
  - 文献 32 メタアナリシス (CIN3+ 罹

患率 over all))

- 文献 105 モデル解析 罹患率減少効果

- 経時的変化 : CIN3+ の発生は、検診時 HPV 検査陽性であれば組織診陰性のものであっても、検診後 1 年で 2.1% の者に見られ (文献 58)。同時期での浸潤がん発生は 0.8% (文献 58) であった。その後、CIN3+、浸潤がんのいずれにおいても検診 15 年目まで漸増しており、途中でプラトーに達していない。(図 2、3)
 

また、さらなるトリアージとして型判定を実施した報告 (文献 60) によれば、16 型陽性のもものは HPV 陽性かつ細胞診 NILM の中でも CIN3+ の累積罹患率が高かった。(図 2)
- 罹患率減少効果 : CIN3+ や浸潤がんの罹患率減少効果については、検診手法が HPV 単独の場合についてのメタアナリシスがメタアナリシス (文献 32) およびモデリング (文献 105) があつた。「HPV 検査陽性の場合に細胞診でトリアージを行なう」というアルゴリズムに限定した解析はなかつた。

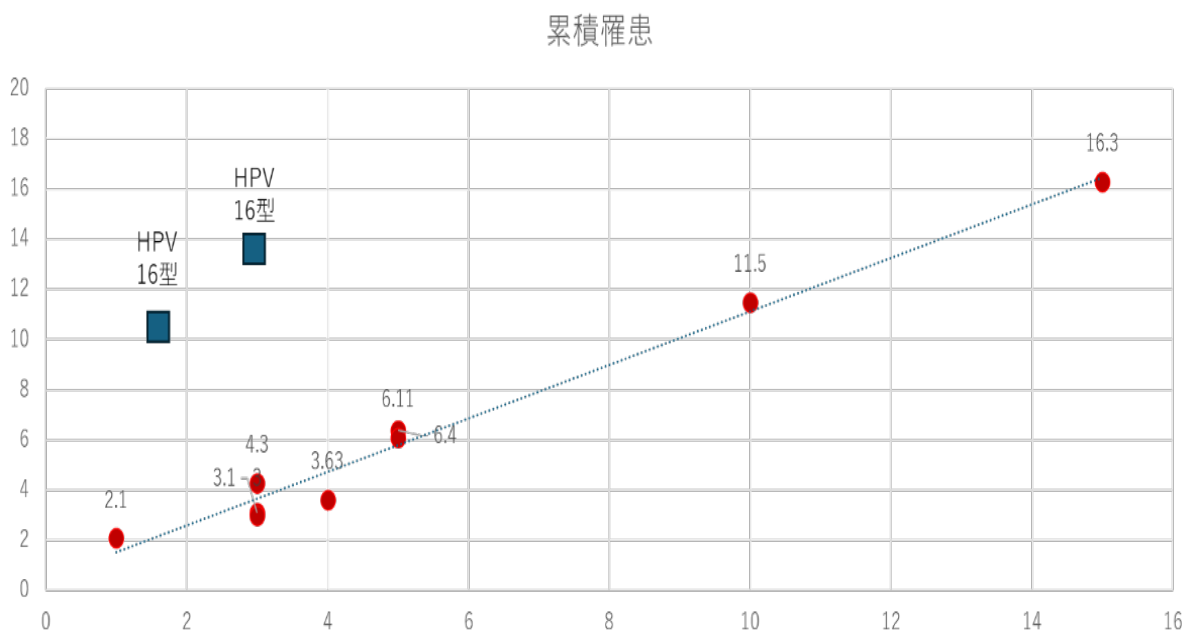


図 2. HPV 検査陽性細胞診 NILM における累積罹患 (CIN3+) : 文献 (文献 10、32、44、58、60 より作図)

## 累積罹患

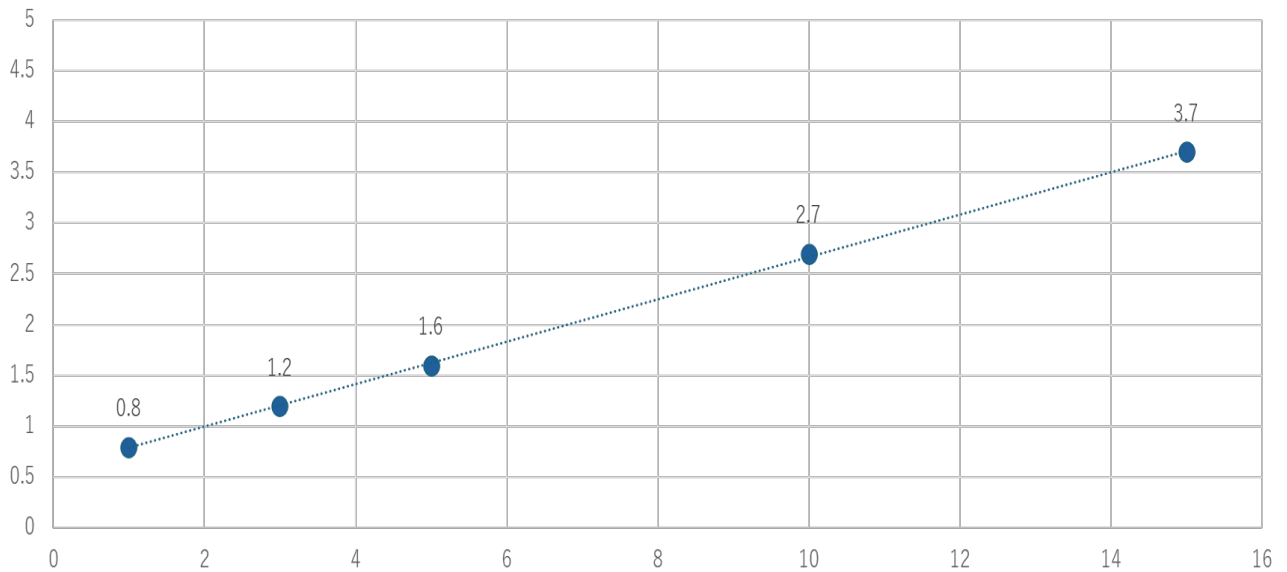


図3. HPV 検査陽性細胞診 NILM における累積罹患 (浸潤がん)

(文献 58 より作図)

### D. 考察

今回の検討で、HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM 例の追跡精検実施時期は、「検診実施の1年後」とするアルゴリズムが最も多いことが判明した。よって2022年度以降の本研究により、文献的に最も頻度の高いアルゴリズムは「HPV 検査単独検診→細胞診トリアージ→1年後に HPV 検査単独法による追跡精検」であることが明らかになった。この結果は、わが国が2024年4月から導入することが可能となった HPV 検査単独法によるアルゴリズムを支持するものである。

型判定を用いない HPV 検査単独法検診での CIN3+ の累積罹患率は研究の別によらず、1年目～5年目までほぼ同等の値を示しており、HPV 検査単独法による検診で検出の累積罹患の一般的な傾向として、今後わが国で実施される検診の運用状況を評価する際の参照すべき材料になり得る。また、15年目まで累積罹患は増加しており、HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM 症例に対して1年後から追跡精検を実施する、さらに HPV が陰性化するまでは検診に戻さず、精密検査の枠組みでフォローアップする、としたわが国のアルゴリズムの妥当性をサポートする結果が得られた。この、15年間にわた

り CIN3+ や浸潤がんが漸増した原因としては、「HPV 感染から浸潤がん発生まで数年～20年以上の年月を要する」という子宮頸部病変の自然史の現れと考えられ、HPV 検査陽性例を脱落させずにフォローアップの管理下に置くことが出来るか否かが HPV 検査単独法での検診の成功の鍵になりうる。

フォローアップの間隔については、文献的頻度でも12ヶ月後が最も多かったが、間隔をあげることによる影響は CIN3+ の累積罹患のデータから結論を出すことは困難である。また、英国のアルゴリズムのように HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM が続いた症例ではコルポスコープ下狙い組織診を実施することについての累積での評価も今回は得られていない。

HPV型判定を行った場合については、Onclarityでのデータのみではあるものの、HPV16型での CIN3+ 累積罹患がほかの HPV 型と比較して群を抜いて高かった。この現象は1.5年目から見られ症例の10%にも到達することから細胞診 NILM で HPV16 型陽性の症例は、12ヶ月後～18ヶ月後のフォローアップを確実に実施できる体制が望まれる。

罹患率減少効果については、HPV 検査単独法検診でのシステマティックレビューとモデル解析があったが、トリアージ方法や追跡精検方法に言及したものは得られず、現時点では「検診方法→トリアージ検査方法→追跡精検の方法と時期」というアルゴリズムの各段階の組み合わせを、累積罹患率の減少効果に基づいて決定することは不可能であることが判明した。したがって、当研究班が主に文献的な頻度と実現性を考慮してアルゴリズムを提案したことには一定の妥当性がある。今後はわが国でこのアルゴリズムに基づいた検診プログラムを実施して、累積罹患を含めたモニタリングを実施し、わが国自身がアルゴリズムの妥当性の検証結果を世界に向けて発信していくパイロットの段階にある。

## E. 結論

体系的な文献検索により、検査法の採用頻度から HPV 検査単独法検診のアルゴリズムを提案することができ、わが国で 2024 年度に採用されたものと矛盾しなかった。一方、CIN3+の累積罹患や減少効果を元に、HPV 検査を用いた検診のアルゴリズム選択を行なうには現時点では十分なデータが公表されておらず、わが国で選択したアルゴリズムの妥当性は自国でモニタリングしていく必要がある。

## F. 健康危険情報

本研究は主に文献収集および地方自治体、検査関係企業等を対象にした調査であり、個人への介入は行わないため個人への不利益や危険性は生じない。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

・研究代表者 青木大輔

森定 徹, 青木大輔: 子宮頸がん検診 - 子宮頸部細胞診単独法と HPV 検査単独法-. 医学のあゆみ, 292(12):978-984, 2025.

Morisada T, Aoki D: Assessment and Management of Cervical Cancer Screening

Programs in Japan. In: Aoki D. (eds) Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer, Singapore, page: 63-73, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_4.

森定 徹, 青木大輔: 【エビデンスから見たがん検診】 子宮頸がん検診. 地域医学, 38(2):142-146,2024.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌,31(3):35-41,2024.

・研究分担者 八重樫伸生

Yoshiizumi E, Onuki M, Kukimoto I, Takahashi F, Matsui T, Hamasaki K, Kanao H, Nio A, Yahata H, Goda M, Yokoyama T, Hisa T, Tasaki K, Tenjimbayashi Y, Saji H, Kudaka W, Takei Y, Shigeta S, Motohara T, Matsumiya H, Nakamura K, Yoshida H, Ishikawa M, Hamanishi J, Nakai H, Mori-Uchino M, Hirashima Y, Sekizawa A, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group: Declining Prevalence of Human Papillomavirus Co-Infections Among Young Japanese Women With Cervical Cancer and Its Precursors. J Med Virol, 96(12):e70096, 2024.

Ishibashi M, Niikura H, Ishida M, Iwama N, Metoki H, Shigeta S, Nagai T, Tokunaga H, Shimada M, Yaegashi N: Long-Term and Short-Interval Assessment of Self-Reported Urinary and Sexual Functions after Nerve-Sparing Radical Hysterectomy: A Prospective Cohort Study. Tohoku J Exp Med. 263(1):1-9, 2024.

・研究分担者 藤井多久磨

Kawasaki R, Kukimoto I, Tsukamoto T, Nishio E, Iwata A, Fujii T: Cervical mucus can be used for metabolite screening in cervical cancer. Cancer Sci, 115(11):3672-3681, 2024.

Fujii T, Nishio E, Tsukamoto T, Kukimoto I, Iwata A: Performance of an ancillary test for cervical cancer that measures miRNAs and cytokines in serum and cervical mucus. *Cancer Sci*,115(8):2795-2807, 2024 .

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(7):1073-1094, 2024.

・研究分担者 宮城悦子

Hirahara Y, Shimizu K, Yamasaki S, Iyoda T, Ueda S, Sato S, Harada J, Saji H, Fujii S, Miyagi Y, Miyagi E, Fujii SI: Crucial immunological roles of the invasion front in innate and adaptive immunity in cervical cancer. *Br J Cancer*, 131(11):1762-1774,2024.

Ushio E, Mizushima T, Sukegawa A, Saigusa Y, Kurasawa K, Iwata A, Aoki S, Ueda Y, Sekine M, Miyagi E: Risk factors for positive cervical cytology during early pregnancy screening and awareness of positive cytological results in Japan: a report from the Pregnant Women Health Initiative. *J Int Med Res*, 52(10):3000605241285548,2024.

宮城悦子:特集一括アップデート！子どものワクチン・予防接種 IV. 定期接種・任意接種 19. ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン. *小児科*,65(10),1035-1039,2024.

Miyagi E, Mizushima T: Is there a need for screening of cervical HPV infections and carcinoma ? *Best Pract Res Clin Obstet Gynaecol*, 96: 102522, 2024.

Furuno A, Sukegawa A, Ohshige K, Suzuki Y,

Yamaguchi M, Miyagi E, Ueda Y, Sekine M, Mizushima T: Three-year questionnaire study on human papillomavirus vaccination targeting new female college school students: Follow-up to a 2021 report to reveal the impact of a policy change in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(9): 1640-1648, 2024.

Miyagi E : Human papillomavirus (HPV) vaccination in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(1): 65-71,2024.

宮城悦子:子宮頸がん予防の最新情報. *神奈川医学会雑誌*,51(2), 26-30,2024.

宮城悦子:HPV ワクチンと HPV 検査の課題と展望～子宮頸がんの Elimination を目指して～. *日本臨床検査医学会誌*,72(6):518-523,2024.

宮城悦子:HPV の最近の動向 HPV ワクチンの国際情勢. *日本産科婦人科学会雑誌*,76(5):597-603,2024.

宮城悦子: 地域で考えよう 子宮頸がん HPVワクチン 総論 日本における子宮頸がん,HPV ワクチンと子宮がん検診の現状,他の先進国の現状と将来予想,日本との比較. *地域医学*,38(3),157-162, 2024.

宮城悦子: HPV ワクチンについて (3)～HPV ワクチン接種勧奨再開後の動向と子宮頸がん予防の最新情報～. *母性衛生*,64(4):781-786,2024.

・研究分担者 中山富雄

中山 富雄 : がん検診の功罪 特に過剰診断について. *腫瘍内科*, 34(4):414-417, 2024.

Yagi A, Nakagawa S, Ueda Y, Oka E, Ikeda S, Kakuda M, Kobayashi E, Ito Y, Katayama K, Hirai K, Nakayama T, Kimura T: Effectiveness of catch-up and routine program of the 9-valent vaccine on cervical cancer risk reduction in Japan. *Cancer Sci*, 115(3):916-925,2024.

Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T : Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. *Prev Med Rep*, 39:102649, 2024.

・研究分担者 齋藤 豪

Matsuura M, Tamate M, Nagao S, Akimoto T, Kasuga F, Saito K, Shikanai S, Nishimura Y, Teramoto M, Saito T : Human papillomavirus self-sampling and urine-sampling tests and the management and short-term outcomes of cervical intraepithelial neoplasia: A prospective observational study. J Obstet Gynaecol Res, 50(10):1801-1807, 2024.

・研究分担者 横山良仁

Ito H, Yokoyama Y, Kyo S, Mandai M, Kosaka K, Kobayashi H, Miyagi E, Onuki M, Matsumoto K, Matsumura N, Umemura K, Ishikawa H, Isaka K : Interim analysis of robotic-assisted radical hysterectomy in Japan: a multicenter, prospective interventional single-arm clinical trial. BMC Cancer, 24: 1360, 2024.

Fukuhara R, Yokoyama Y, Kakogawa J, Koide K, Song Mihyon, Tanabe K, Tsushima R, Makino S, Hasuo Y, Ogita K, Unno N, Kato K, Kimura T : Sexual reproductive health and rights awareness among members of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology. J Obstet Gynaecol Res, 50: 1697-1702, 2024.

三上 智香, 重藤 龍比古, 追切 裕江, 松村 由紀子, 横山 良仁: 急速に進行したHPV非依存性子宮頸部腺癌の一例. 青森県臨床産婦人科医会誌, 39(1): 27-33, 2024.

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. J

・研究分担者 竹原和宏

Hasegawa K, Takahashi S, Ushijima K, Okadome M, Yonemori K, Yokota H, Vergote I, Monk BJ, Tewari KS, Fujiwara K, Li J, Jamil S, Paccaly A, Takehara K, Usami T, Aoki Y, Suzuki N, Kobayashi Y, Yoshida Y, Watari H, Seebach F, Lowy I, Mathias M, Fury MG, Oaknin A : Cemiplimab monotherapy in Japanese patients with recurrent or metastatic cervical cancer. Cancer Medicine, 13(18): e70236, 2024.

横山貴紀, 日比野佑美, 藤本悦子, 坂井美佳, 大亀真一, 寺本典弘, 竹原和宏: CIN3に対するレーザー蒸散術後は長期の経過観察が必要である. 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 42(1):1-5, 2024.

日比野佑美, 横山貴紀, 藤本悦子, 坂井美佳, 大亀真一, 竹原和宏: コロナ禍における愛媛県の子宮頸がん検診受診状況～がん登録からみた地方の状況. 現代産婦人科, 72(2) : 245-250, 2024.

Seino M, Nagase S, Tokunaga H, Yamagami W, Kobayashi Y, Tabata T, Kaneuchi M, Hirashima Y, Niikura H, Yoshino K, Takehara K, Baba T, Katabuchi H, Mikami M : Japan Society of Gynecologic Oncology 2022 guidelines for uterine cervical neoplasm treatment. Gynecol Oncol, 35(1):e15, 2024.

Hibino Y, Yokoyama T, Fujimoto E, Okazawa-Sakai M, Okame S, Teramoto N, Takehara K; Abnormal vaginal cytology after total laparoscopic hysterectomy in patients with cervical intraepithelial neoplasia. Acta Medica Okayama, 77(6): 627-634, 2024.

・研究分担者 川名 敬

川名 敬: ヒトパピローマウイルス(HPV)感染症. 臨床泌尿器科, 78(12):968-973, 2024.

川名 敬:【今知っておきたい性感染症】(Part.2.)コンジローマ,性器ヘルペスアップデート ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンアップデート. Visual Dermatology, 23(9):856-860, 2024.

川名 敬: ウイルス感染症 ヒトパピローマウイルス, 周産期医学, 54(5):594-597,2024.

川名 敬:【子宮頸がん撲滅へ向けた戦略-ワクチンと検診の新たなトレンドは?】総論 子宮頸がんの発がん機序とその制御. 臨床婦人科産科, 78(6):480-488, 2024.

川名 敬: 腫瘍学 CIN治療薬としてのHPV治療ワクチンと免疫療法. 臨床婦人科産科, 78(1):148-154, 2024.

Hang S, Haruyama R, Uy K, Fujita N, Kimura T, Koum K, Kawana K: Feasibility, accuracy and acceptability of self-sampled human papillomavirus testing using careHPV in Cambodia: a cross-sectional study. J Gynecol Oncol, 35(1): e6, 2024.

・研究分担者 齊藤英子

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌,31(3):35-41,2024.

・研究分担者 森定 徹

森定 徹, 青木 大輔: 子宮頸がん検診 - 子宮頸部細胞診単独法と HPV 検査単独法-. 医学のあゆみ, 292(12):978-984, 2025.

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. J Obstet Gynaecol Res, 50(7):1073-1094, 2024.

Morisada T, Aoki D : Assessment and Management of Cervical Cancer Screening Programs in Japan. In: Aoki D. (eds) Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer, Singapore, page: 63-73, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_4.

森定 徹, 青木大輔: 【エビデンスから見たがん検診】 子宮頸がん検診. 地域医学, 38(2):142-146,2024.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌,31(3):35-41,2024.

・研究分担者 高橋宏和

高橋宏和: 精度管理 -がん検診事業のあり方- 医学の歩み, 292(12):944-948,2025.

加藤勝章, 小池智幸, 青木利佳, 赤羽たけみ, 安保知典, 鎌田智有, 高橋宏和, 山道信毅: 胃がん検診にかかわる実態調査報告. 日本消化器がん検診学会誌,62(6):846-876, 2024.

高橋宏和: がん検診事業評価の現状と方向性. 日本乳癌検診学会雑誌, 33(2)別刷, 2024.

高橋宏和: 健保組合が取り組む職域のがん検診. 健康保険, 9: 6-9, 2024.

Hamashima C, Takahashi H : Cancer screening programs in Japan. Progress and challenges. J Med Screen, 31(4):207-210, 2024.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌,31(3):35-41,2024.

Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T : Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. Prev Med Rep, 39:102649, 2024.

・研究分担者 戸澤晃子

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. J Obstet Gynaecol Res, 50(7):1073-1094, 2024.

・研究分担者 雑賀公美子

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌, 31(3):35-41, 2024.

・研究分担者 黒川哲司

Chino Y, Onuma T, Ito T, Shinagawa A, Kurokawa T, Orisaka M, Yoshida Y: Human Papillomavirus Self-Sampling for Unscreened Women Aged 24 Years During the COVID-19 Pandemic. Healthcare (Basel), 12(21):2160, 2024.

Ito T, Onuma T, Kurokawa T, Chino Y, Shinagawa A, Yoshida Y: Evaluating Opt-In Vaginal Human Papillomavirus Self-Sampling: Participation Rates and Detection of High-Grade Lesions (CIN2+) among Unscreened Japanese Women Aged 30-39. Healthcare (Basel), 12(5):599, 2024.

・研究分担者 上田 豊

Ushio E, Mizushima T, Sukegawa A, Saigusa Y, Kurasawa K, Iwata A, Aoki S, Ueda Y, Sekine M, Miyagi E: Risk factors for positive cervical

cytology during early pregnancy screening and awareness of positive cytological results in Japan: a report from the Pregnant Women Health Initiative. J Int Med Res, 52(10):3000605241285548, 2024.

Furuno A, Sukegawa A, Ohshige K, Suzuki Y, Yamaguchi M, Miyagi E, Ueda Y, Sekine M, Mizushima T: Three-year questionnaire study on human papillomavirus vaccination targeting new female college school students: Follow-up to a 2021 report to reveal the impact of a policy change in Japan. J Obstet Gynaecol Res, 50(9):1640-1648, 2024.

Yagi A, Nakagawa S, Ueda Y, Oka E, Ikeda S, Kakuda M, Kobayashi E, Ito Y, Katayama K, Hirai K, Nakayama T, Kimura T: Effectiveness of catch-up and routine program of the 9-valent vaccine on cervical cancer risk reduction in Japan. Cancer Sci, 115(3):916-925, 2024.

・研究分担者 西尾 浩

Katoh Y, Kubo A, Hayashi N, Sugi T, Katoh K, Udagawa S, Ogawa T, Iwata T, Nishio H, Sugawara M, Hirai S, Kawana K: Serum levels of stearic and dihomo- $\gamma$ -linolenic acids can be used to diagnose cervical cancer and cervical intraepithelial neoplasia. Sci Rep, 14:20833, 2024.

西尾 浩, 松田 理沙, 山上 亘: 子宮頸癌に対する妊孕能温存治療の実際. 東京産婦人科医学会誌, 57:92-96, 2024.

西尾 浩: 【婦人科がん治療における免疫チェックポイント阻害薬】 子宮頸がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の現況. 日本産科婦人科学会雑誌, 76(4):501-505, 2024.

2. 学会発表

・研究代表者 青木大輔

青木 大輔: 【特別講演】 対策型検診としての子宮頸がん検診. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林 陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔:【シンポジウム】HPV 検査単独法における HPV 陽性者のトリアージとしての細胞診. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan ' s Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

青木大輔:【特別講演】自治体が提供する対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の課題. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前),2024/10.

森定徹, 寺本勝寛, 端晶彦, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔:【シンポジウム】HPV 検診を検証する RCT における HPV 陽性・細胞診陰性例について. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前),2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和:住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評価のためのチェックリスト(検診機関用)」の作成ー. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

雑賀 公美子, 齊藤 英子, 森定 徹, 青木 大輔:【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

森定 徹, 雑賀 公美子, 齊藤 英子, 中山 富雄, 小林 陽一, 青木 大輔:【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林 陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔: HPV 検査を用いた子宮頸がん検診を検証する CITRUS スタディの最終報告. 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (大阪), 2024/06.

齊藤英子, 雑賀公美子, 青木大輔: 全国がん登録との比較からみた、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録による子宮頸部悪性病変の症例把握状況. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

・研究分担者 藤井多久磨

藤井多久磨:子宮頸部細胞診のピットフォール. 令和6年度愛知県がん検診従事者講習会 細胞診断従事者講習会(開催:愛知県がんセンター)(Web), 2025/02.

Fujii T, Kawasaki R, Kukimoto I, Tsukamoto T, Nishio E, Iwata A: Cervical mucus can be used for metabolite screening in cervical cancer. The

36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Fujii T, Nishio E, Kukimoto I, Iwata A: Performance of an ancillary test for cervical cancer that measures miRNAs and cytokines in serum and cervical mucus. The IGCS 2024 (International Gynecologic Cancer Society) conference(Ireland), 2024/10.

Fujii T: IFCPC Joint Session 1 (Pre-congress Workshop) - Colposcopy, Essential examination JS1-2 - Enhancing Clinical Proficiency in Cervical Neoplasia Management: Challenges and Strategies for Detecting Glandular and Vaginal Lesions. 2024 AOGIN (Asia-Oceania Research Organization in Genital Infection and Neoplasia)( Korea), 2024/07.

Fujii T: International Workshop: A prospective clinical trial of diathermy ablation for patients with high-grade cervical intraepithelial neoplasia from a single institution. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

藤井多久磨: 女性の健康～子宮頸がんの予防法～. 岡崎市医師会健康教育講座(愛知), 2024/06.

藤井多久磨:【特別講演】子宮頸部細胞診～婦人科医からの視点. 第178回日本臨床細胞学会東海連合会例会(名古屋), 2024/06.

藤井多久磨:【生涯研修プログラム】CINの管理 コルポスコピーのpit fall. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

・研究分担者 宮城悦子

宮城悦子:子宮頸がん予防の最新情報～検診と HPV ワクチンについて～. 第 42 回福島県臨床細胞学会総会ならびに学術集会(郡山), 2024/10.

宮城悦子:包括的子宮頸がん予防の動向(HPV ワクチンを含めて). 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

宮城悦子:子宮頸がん予防の最前線～周産期関連情報を含めて～. 第 21 回北海道周産期談話会第 29 回北海道周産期研修会(札幌), 2024/06.

宮城悦子, 折館 伸彦:HPV ワクチンによる HPV 関連がんの予防—男性への定期接種に向けて. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会(大阪), 2024/05.

・研究分担者 中山富雄

榎本建志, 細野覚代, 三村麻子, 宮澤 仁, 町井涼子, 山崎恭子, 八巻知香子, 中山富雄:「患者・市民パネル」におけるリスク層別化がん剣士の受容可能性等に関する質的研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

難波俊文, 細野覚代, 町井涼子, 中山富雄: 対策型検診への HPV 検査導入において求められる情報提供とは: 混合研究法による検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

森定 徹, 雑賀 公美子, 齊藤 英子, 中山 富雄, 小林 陽一, 青木 大輔:【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

・研究分担者 横山良仁

追切裕江, 横山良仁 他: 子宮頸癌(扁平上皮癌)との鑑別に苦慮した膀胱癌(移行上皮癌)の一例. 第 42 回青森県臨床細胞学会(青森), 2025/03.

横山良仁:【シンポジウム】子宮体癌の新進行期分類(FIGO2023)を考える: 新 FIGO 分類から考えた日産婦分類改訂の展望. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(千葉), 2024/11.

横山良仁:【会長講演】子宮体がん腹腔洗浄細胞診の意義. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前), 2024/10.

永沢 崇幸, 庄子 忠宏, 千葉 洋平, 佐藤 翔, 高取 恵里子, 海道 善隆, 利部 正裕, 重藤 龍比古, 清水 大, 馬場 長, 杉山 徹, 横山 良仁: 再発子宮頸部非扁平上皮癌患者に対する S-1/オキサリプラチン(SOX 療法)の第 II 相試験(TGCU206 study). 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

・研究分担者 竹原和宏

Matsumoto T, Kondo E, Imai Y, Igura K, Nomura H, Kanao H, Kudo R, Yoshihara K, Hibino Y, Takehara K, Hamasaki K, Yamamoto K, Yamaguchi S : Effectiveness of adjuvant chemotherapy after pulmonary metastasectomy in recurrent uterine cervical cancer with oligo-metastasis : A multi center retrospective study. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 (福岡), 2024/10.

鈴木史朗, 宇佐美知香, 竹原和宏, 渡利英道, 西尾真, 馬場 長, 西尾 浩, 平良祐介, 小林陽一, 上浦 祥司, 園田顕三, 堀江弘二, 加藤眞吾, 丸子武史, 山本景子, 井上耕平, Yamada Karin, Lorusso Domenica, 長谷川 幸清 : 婦人科がん免疫療法におけるnext innovation 高リスク局所進行子宮頸がん患者を対象としたKEYNOTE-A18の日本人部分集団解析 (Pembrolizumab Plus Concurrent Chemoradiotherapy for High-risk Locally Advanced Cervical Cancer: Japanese Subgroup Analysis From the Phase 3 ENGOT-cx11/GOG-3047/KEYNOTE-A18 study). 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

Kara Romano, Gabriella Macchia, Melissa Christiaens, Susan Lalondrelle, Xiang Zhang, Andréia Cristina De Melo, Klaudia Reginacova, Limor Helpman, Ali Ayhan, Flora Zagouri, Linn Woelber, Kristina Hellman, Nicoletta Colombo, Margarita Romeo Marin, Regina Berger, Emma Fields, Karla Alejandra Lopez, Vincent Castonguay, Kazuhiro Takehara, Ting-Chang Chang, Karin Yamada, Martina Puglisi, Kan Li, Annamaria Cerrotta, Domenica Lorusso : A Phase 3 Study of Pembrolizumab (Pembro) + Chemoradiotherapy (CCRT) for High-Risk Locally Advanced Cervical Cancer (LACC)( 2024 World Congress of Brachytherapy (National Harbor), 2024/07.

Gabriella Macchia, Annamaria Cerrotta, Melissa Christiaens, Susan Lalondrelle, Xiang Zhang, Andréia Cristina De Melo, Klaudia Reginacova, Limor Helpman, Ali Ayhan, Flora Zagouri, Linn Woelber, Kristina Hellman, Nicoletta Colombo, Margarita Romeo Marin, Regina Berger, Karla Alejandra Lopez, Vincent Castonguay, Kazuhiro Takehara, Ting-Chang Chang, Karin Yamada, Sarper Toker, Kan Li, Domenica Lorusso : A Phase 3 study of pembrolizumab plus

chemotherapy for high-risk locally advanced cervical cancer: Results from ENGOT-CX11/GOG-3047/KEYNOTE-A18. AIRO2024 (Milano), 2024/06.

日比野佑美, 横山貴紀, 藤本悦子, 坂井美佳, 大亀真一, 竹原和宏 : コロナ禍における愛媛県の子宮頸がん診療の状況. 第76回愛媛県産婦人科医会学術集談会 (松山), 2024/06.

Annamaria Cerrotta, Gabriella Macchia, Melissa Christiaens, Susan Lalondrelle, Xiang Zhang, Andréia Cristina De Melo, Klaudia Reginacova, Limor Helpman, Ali Ayhan, Flora Zagouri, Linn Wölber, Kristina Hellman, Nicoletta Colombo, Margarita Romeo Marin, Regina Berger, GOG author TBC, Karla Alejandra Lopez, Vincent Castonguay, Kazuhiro Takehara, Ting-Chang Chang, Karin Yamada, Sarper Toker, Kan Li, Domenica Lorusso, GOG author TBC : A Phase 3 Study of Pembrolizumab + Chemoradiotherapy for High-Risk Locally Advanced Cervical Cancer. ESTRO2024(Glasgow), 2024/05.

藤本悦子, 日比野佑美, 横山貴紀, 坂井美佳, 大亀真一, 竹原和宏 : 進行再発子宮頸癌に対して Pembrolizumab併用化学療法を施行した12症例の検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 (東京). 2024/04.

大亀真一, 坂井美佳, 藤本悦子, 横山貴紀, 日比野佑美, 竹原和宏 : 子宮頸癌IVB期の治療方針. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 (東京). 2024/04.

・研究分担者 川名 敬

川名 敬 : 【要望講演】HPV関連腫瘍から見た子宮頸癌 HPV発癌のさらなる解明とワクチンの進歩. 第63回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

川名 敬 : HPV 関連中咽頭癌・婦人科癌 HPV 発癌メカニズムに基づいた子宮頸癌の新規免疫療法. 第62回日本癌治療学会学術集会 (福岡), 2024/10.

川名 敬 : 革新的な婦人科感染症の治療戦略の提唱 そのモデルとしてのHPV予防・治療ワクチン. 第40回日本婦人科感染症学会(東京), 2024/05.

川名 敬： HPVの発癌機序と宿主免疫制御から見た子宮頸癌に対する免疫療法の新展開. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 (東京). 2024/04.

川名 敬：新興・再興感染症への対応 ～臨床現場で起こっていることを整理する. 第143回東海産科婦人科学会 (名古屋), 2024/03.

・研究分担者 齊藤英子

佐野弘子, 齊藤英子, 永吉陽子, 上田 和, 進 伸幸, 相田真介：当院における子宮頸部細胞診 ASC-H 判定の妥当性の検討ー生検結果の追跡ー. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan ' s Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

齊藤英子, 雑賀公美子：子宮頸がん検診における HPV 検査単独法のアルゴリズム【報告 1】. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

雑賀公美子, 齊藤英子：子宮頸がん検診における HPV 検査単独法のアルゴリズム【報告 2】. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子：職域がん検診実施施設での精度管理実施状況調査の実施可能性に関する検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, Misha Coleman, Hannah Saunders, Marion Saville：【ワークショップ】精度管理向上の理念を含有する自己採取 HPV 検査提供のあり方ーオーストラリアのストラテジーからー. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前), 2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和：住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評価のためのチェックリスト(検診機関用)」の作成ー. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博, 松坂方士：住民検診での都道府県別精検受診率の比較ー子宮頸がん検診と乳がん検診ー公表データを用いた分析. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔：【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔：【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指

針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

齊藤英子,小田瑞恵,佐々木寛:【ワークショップ】HPV 検査単独法による子宮頸がん検診—さまざまな委託元へのがん検診提供を念頭においた場合の留意点—. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

齊藤英子, 雑賀公美子, 青木大輔: 全国がん登録との比較からみた、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録による子宮頸部悪性病変の症例把握状況. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

#### ・研究分担者 森定 徹

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔:【シンポジウム】HPV 検査単独法における HPV 陽性者のトリアージとしての細胞診. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉) ,2024/11.

森定 徹: 細胞診専門医セミナー: 子宮頸がん検診プログラムの精度管理における精密検査のあり方—婦人科医の立場から—. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉) ,2024/11.

森定 徹: 精度管理アドバイザー講習会: HPV 検査単独法の検診プログラムの精度管理について. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉) ,2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan ' s Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of

adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

森定徹, 寺本勝寛, 端晶彦, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔:【シンポジウム】HPV 検診を検証する RCT における HPV 陽性・細胞診陰性例について. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前),2024/10.

森定 徹:わが国の子宮頸がん検診の状況と現在の課題. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和:住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へ—職域検診用「事業評価のためのチェックリスト(検診機関用)」の作成—. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

森定 徹:HPV 検査の導入を想定したわが国の子宮頸がん検診について. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

森定 徹, 雑賀 公美子, 齊藤 英子, 中山 富雄, 小林 陽一, 青木 大輔:【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指

針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

雑賀 公美子, 齋藤 英子, 森定 徹, 青木 大輔:【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

森定 徹: HPV 検査を用いた子宮頸がん検診における LBC. 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会(大阪), 2024/06.

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔: HPV 検査を用いた子宮頸がん検診を検証する CITRUS スタディの最終報告. 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会,(大阪), 2024/06.

・研究分担者 高橋宏和

Takahashi H, Machii R : Effect of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. 20th International Congress On Infectious Diseases 2024 (Cape Town) , 2024/12.

高橋宏和:【シンポジウム】リスク層別化がん検診の障壁と可能性. 第34回日本乳癌検診学会学術総会(高崎), 2024/11.

華井明子, 街勝憲, 清水陽一, 梅沢淳, 金原理恵子, 小手森綾香, 齋藤英子, 逸見治, 堀芽久美, 高橋宏和: 感染拡大特定警戒地域における BMI と身体活動の変化匿名特定健診データによる検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

岩佐詩織, 渡邊哲也, 小手森綾香, 金原里恵子, 中館美佐子, 石原淳子, 齋藤英子, 堀芽久美, 街勝憲, 華井明子, 逸見治, 清水陽一, 高橋宏和: 新型コロナウイルス感染症の流行後に生じた日本人の食料支出の経年変化. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

男澤詩保里, 岩本和雄, 戸津玲, 高橋宏和: 職域におけるがん検診の精度管理チャートの開発. 第34回日本産業衛生学会全国協議会 (木更津) ,2024/10.

高橋宏和: 乳がん検診のプロセス指標目標値改正について. 第32回日本がん検診・診断学会総会(東京),

2024/09.

岡田結生子, 齋藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: 住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評価のためのチェックリスト (検診機関用)」の作成ー. 第32回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

高橋宏和:【教育講演】ポストコロナ時代のがん検診戦略. 第63回日本消化器がん検診学会総会 (名古屋) ,2024/06.

・研究分担者 雑賀公美子

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan ' s Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive

women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

齊藤英子, 雑賀公美子: 子宮頸がん検診における HPV 検査単独法のアルゴリズム【報告1】. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

雑賀公美子, 齊藤英子: 子宮頸がん検診における HPV 検査単独法のアルゴリズム【報告2】. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子: 職域がん検診実施施設での精度管理実施状況調査の実施可能性に関する検討. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

雑賀公美子: HPV 単独法による子宮頸がん検診のプログラムの精度管理. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前), 2024/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, Misha Coleman, Hannah Saunders, Marion Saville: 【ワークショップ】精度管理向上の理念を含有する自己採取 HPV 検査提供のあり方—オーストラリアのストラテジーから—. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前), 2024/10.

田中里奈, 松坂方士, 雑賀公美子, 斎藤博: 青森県の対策型検診における子宮頸がん検診の感度・特異度. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前), 2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: 住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へ—職域検診用「事業評価のためのチェックリスト(検診機関用)」の作成—. 第32回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: 【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博, 松坂方士: 住民検診での都道府県別精検受診率の比較—子宮頸がん検診と乳がん検診—公表データを用いた分析. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

島), 2024/07.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: 【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

齊藤英子, 雑賀公美子, 青木大輔: 全国がん登録との比較からみた、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録による子宮頸部悪性病変の症例把握状況. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

・研究分担者 黒川哲司

黒川哲司: HPV 検査単独法で求められる細胞診判定. 第41回福井県臨床細胞学会(福井), 2025/03.

黒川哲司: 座長 福井県婦人科がん検診講習会(福井), 2025/03.

黒川哲司: 【ワークショップ】 子宮頸がん検診未受診者対策としての自己採取 HPV 検査の効果と問題点. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前), 2024/10.

・研究分担者 上田豊

上田豊: 【特別講演】 ソーシャルマーケティング手法を活用した女性支援～子宮頸がん対策と育児中の孤独対策～. 第39回大阪温知会総会(大阪), 2025/02.

上田豊: 【招聘講演】 接種の現状および今後の展望について. 厚生労働省 令和6年度 HPV ワクチンの接種に係る医療機関向け研修会(Web), 2025/02.

上田豊: 【招聘講演】 HPV ワクチンの2024年の上半期までの累積接種率. 第105回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会/令和6年度第10回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会(東京), 2025/01.

上田豊: HPV ワクチンによるがん予防 その現状と課題. 令和6年度城東区学校保健協議会, 2024/12.

上田 豊 : HPVワクチンによるがん予防 その現状と課題. 令和6年度東成区学校保健協議会,2024/11.

上田 豊 : 【シンポジウム】 Current Status of Cervical Cancer and HPV Vaccine in Japan. 第62回日本癌治療学会学術集会 (福岡), 2024/10.

上田 豊 : HPV ワクチンの接種の状況. HPV ワクチン拠点病院整備事業 近畿ブロック医療者研修会(Web), 2024/10.

上田 豊 : 男女で必要な HPV 関連がんの予防 メディカルチェック推進機構 子宮頸がん・感染症啓発講演会, 2024/10.

上田 豊 : 【シンポジウム】 本邦における子宮頸がん HPV ワクチンの実情. 第31回日本がん予防学会総会(徳島), 2024/09.

上田 豊 : HPVワクチンの接種を判断するに当たって知っておくべきこと. 西宮市子宮頸がん予防セミナー(西宮), 2024/07.

上田 豊 : 子宮頸がんだけではない、男性も罹る HPV関連がん. サンスター (株) 社内セミナー(大阪), 2024/07.

上田 豊 : 日本はいつまで、頸がん若くは若い女性が命を落とし続けられないのか. 宮崎県子宮頸がん予防 HPVワクチン促進のための研修会(Web), 2024/07.

上田 豊 : 知っておいていただきたい、子宮頸がんの実情. 大阪大学HPVワクチンセミナー(大阪), 2024/07.

上田 豊 : HPV 最新情報～自信をもって勧められるように～. 令和6年度第1回大阪府学校保健講習会(大阪), 2024/06.

上田 豊 : このままじゃダメなんです。大切な人に伝えて下さい、子宮頸がん対策の大切さ. 第65回日本臨床細胞学会総会春期大会 市民公開講座 (大阪), 2024/06.

上田 豊 : 子宮頸がん予防の HPV ワクチン接種率アップに向けた課題. 日本対がん協会セミナー(Web), 2024/05.

上田 豊 : どうして子宮頸がんの予防が勧められるのか. 大阪大学 HPVワクチンセミナーin 2024

いちょう祭(大阪), 2024/05.

上田 豊 : 【シンポジウム】 HPVワクチンの再普及に何が必要か. 第40回日本産婦人科感染症学会学術集会(東京), 2024/05.

上田 豊 : HPV 最新情報. 産婦人科医のための HPV ワクチン講習会(福井), 2024/04.

上田 豊 : 【令和5年度健康・医療活動賞受賞講演】 HPV ワクチンに関する学術的エビデンスの創出と自治体の子宮頸がん対策および母子保健事業に対する学術的支援. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

上田 豊 : HPV ワクチン. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

・研究分担者 西尾 浩

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

西尾 浩, 松田理沙, 松井友哉, 椎名美季, 大野あゆみ, 横田めぐみ, 岩田 卓, 山上 亘 : 新規免疫チェックポイントNeuritin1の発現解析と複合的免疫療法の開発. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

鈴木史朗, 宇佐美知香, 竹原和宏, 渡利英道, 西尾真, 馬場 長, 西尾 浩, 平良祐介, 小林陽一, 上浦 祥司, 園田顕三, 堀江弘二, 加藤真吾, 丸子武史, 山本景子, 井上 耕平, Yamada Karin, Lorusso Domenica, 長谷川 幸清 : 婦人科がん免疫療法におけるnext innovation 高リスク局所進行子宮頸がん患者を対象としたKEYNOTE-A18の日本人部分集団解析 (Pembrolizumab Plus Concurrent Chemoradiotherapy for High-risk Locally

Advanced Cervical Cancer: Japanese Subgroup Analysis From the Phase 3 ENGOT-cx11/GOG-3047/KEYNOTE-A18 study). 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

西尾 浩: 婦人科腫瘍におけるがん免疫療法の最前線. 第147回関東連合産科婦人科学会 総会・学術集会(東京), 2024/06.

西尾 浩: 子宮頸がんに対するがん免疫微小環境- from bench to bedside. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし
3. その他  
特になし